海外レポート

2025 Taiwan International Guppy Master Show

台湾国際グッピーマスターショー

コロナ禍による延期などを乗り越え、本年９月、ついに台北にて開催された国際グッピーコンテストの様子をお伝えしよう。国境を越えて集結した美魚たちの競演を、参加したつもりで楽しんでほしい

文・解説／藤原彦亮　写真提供／蔣孝明氏、黃啟閔氏　Thanks／Gary Lee（本大会ショー・マネージャー　Taiwan Guppy Master Society）

総合優勝（デルタテール部門１位）
RRE アルビノフルレッド デルタテール
Damian Kalinowski（ポーランド）

ダブル総合優勝

均整のとれた真紅の尾ビレ

今回のショーで、同点総合優勝を勝ち取った個体。全体的にバランスがとれています。審査前から注目を集めていました

総合優勝（ラウンドテール部門１位）
メタルレースコブララウンドテール
Chris Cheng（台湾）

ダブル総合優勝

メタリックな輝きと精緻なレース柄

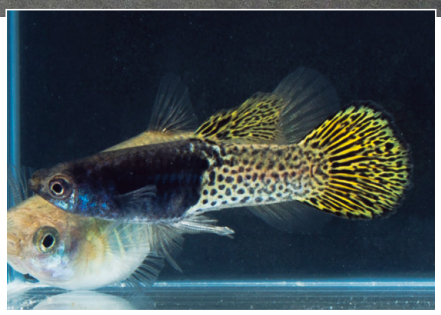
上段の RRE フルレッドと同点で総合優勝した個体。メタル部分が濃く、レース部分もきれいに仕上がっています。私が一番目を付けていたグッピーでした

COLUMN

台湾国際グッピーマスターショーとは？

台湾のグッピー愛好家組織である Taiwan Guppy Master Society が企画したグッピーの国際コンテスト。台湾を含む 12ヵ国から 144 ペアのエントリーがありました。審査員はドイツ、ハンガリー、ポーランド、日本、フランスの５人体制で、審査は I･K･G･H（International Congress for Guppy High-Breeding）の審査基準に基づき実施されました。

会期：2025.9.18-21　開催場所：オリンパスプラザ台北



受賞魚紹介

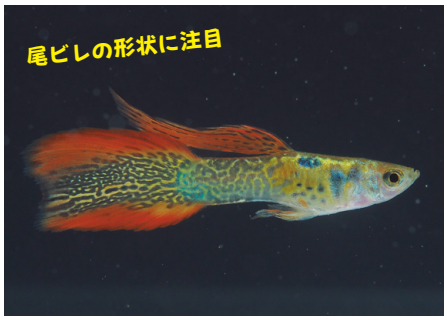
尾ビレの形状ごとに設けられた各部門の受賞魚の中から、一部を紹介しよう。手塩にかけたグッピーが世界各地から出品されており、コンテストの盛り上がりがうかがえる

トップソード部門 1 位
ゴールデンレースコブラトップソード
Chris Cheng（台湾）

レース柄が背ビレ・尾ビレにもきれいに表れたよい個体です。トップソードもきれいに伸びており高得点を獲得

ライアーテール部門 1 位
ライアーテール
Zoltán Dari（ハンガリー）

ライアーテールで有名なのは「シュメルペニヒ」ですが、こちらの個体はコブラ模様が尾筒に入っておもしろいと感じました



フラッグテール部門 1 位
オレンジレースコブラフラッグテール
Milosz Sadecki（フィリピン）

フラッグテールはあまり見る機会がない貴重なグッピーです

ハーフムーン部門 1 位
ギャラクシーモザイク
Frederic Henault（フランス）

ショーベタではハーフムーンというカテゴリーはありますが、グッピーのカテゴリーで見たのは初めてでした

ダブルソード部門 1 位
ウィーンエメラルド（上）／ダブルソード（下）
John Padon（フィリピン）／WP Tung（マレーシア）

同点部門 1 位となった 2 個体。上はウィーンエメラルドと呼ばれているソードテールです。下の個体の呼称ははっきりしません

ボトムソード部門 1 位
ゴールデンウィーンボトムソード
Che Wei Hsing（台湾）

背ビレ、ボトムソードも長くしっかりとしたよい個体です。マイナスポイントはソードが開きすぎなところです。理想は 15° くらいです

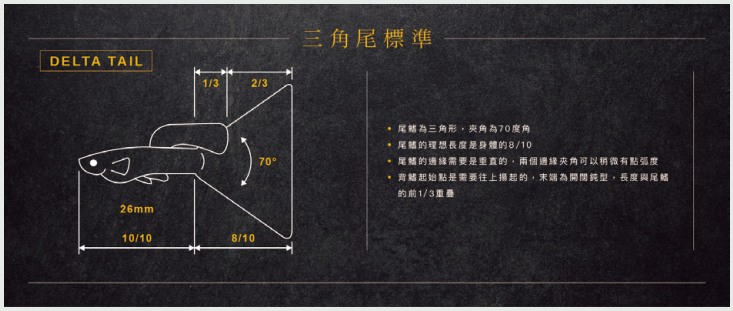
COLUMN

効率化されたグッピーの審査

コンテストの審査にあたっては、まずグッピーをヒレの形状ごとにクラス（部門）分けし、それらをクラスごとの採点基準に基づいて 5 人の審査員が 1 ペアずつ採点していきました。今回のコンテストでは 13 の部門を設け、クラスごとの 1 位と全体の総合 1 位（総合優勝）を選出しました。

私がコンテストの審査に関わっていた当時（28 年前）は、紙の採点表に基づきパソコンへ入力する方式で、集計にも相当時間がかかっていましたが、近年は Web 上のシステムを活用した採点方法（スマートフォンやタブレットを活用）が一般化されていて、全員の審査が終了した時点で全ての結果が瞬時に表示されます。このシステムの存在は知っていましたが、実際に見てみると驚くばかりでした。また、今回、審査員の他に審査の研修生 5 名も加わって採点されていました。詳しくお話を伺うと、次期審査員養成のために行なっておられるとのことでした。このことも勉強になりました。未来の審査員育成も行ないながら、グッピーコンテストの裾野を広げていく取り組みもすばらしいことだと思いました。

審査の様子。写真右は日本から参加の審査員、日渡雅喜氏



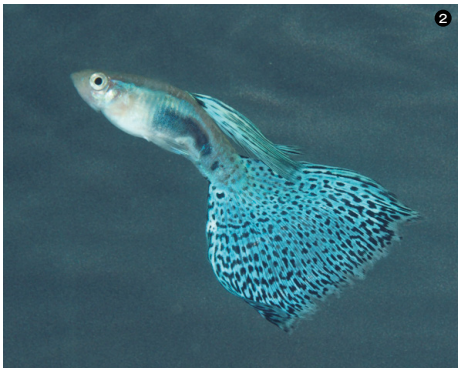
会場には部門ごとの審査ポイントがわかりやすく解説されたパネルが掲示された（画像はデルタテールのもの）

―国際グッピーコンテストの現在―

会場には大人から子どもまで多くの人々が訪れ、熱気に満ちていた。水槽の下には審査基準を解説したパネルが。一般入場者にもコンテストのルールをわかりやすく伝える、新しい試み

コンテスト会期中に開催された、グッピー愛好家への講習会の様子。参加者は熱心に聞き入っていた。講師はショー・マネージャーの Gary Lee 氏

❶総合優勝トロフィー授与の様子
❷デルタテール部門で好評価を得たブルーグラスは日本からの出品（出品者：渡邊寛氏）
❸日本グッピー界の功労者、鈴野さんへの記念品の贈呈式



台湾国際グッピーマスターショー 現地レポート

文／藤原彦亮

会場の賑わいからは台湾におけるグッピー人気の高さがうかがえる

満を持して開催された国際コンテスト

今年（２０２５年）５月に台湾のGary Leeさんからお誘いがあり、９月18日～21日に開催された「２０２５ Taiwan International Guppy Master Show」に４泊５日で参加しました。

このイベントは、台湾の「Taiwan Guppy Master Society」さんが企画する初めての国際大会です。当初は２０１８年の開催に向けて準備されていたそうですが、ＣＯＶＩＤ－19パンデミックの影響やその他の諸事情により延期が繰り返されたのち、今年実現することになったそうです。私の海外コンテストへの参加は前回（マレーシアグッピーチャレンジ２０１６）以来９年ぶりとなり、わくわくしていました（いろいろとお誘いはありましたが、諸事情により参加することができていませんでした）。

９月18日の朝７時50分、関空発のＬＣＣにて３時間のフライトを経て、台北の桃園空港に到着（時差は１時間）。台湾は初めて訪れる国でしたので不安でいっぱいでしたが、趙彦さんと刑哲維さん（コンテスト関係者）が到着口まで出迎えに来てくださり、非常に助かりました。

さっそく、台北市内の会場へ向かいました。今回、日本からは私以外に審査員担当の日渡氏、台湾グッピー界に多大な影響を与えた鈴野氏、そして吉田氏の４名が参加することとなりました。会場は重厚感のある建物で、内部はやや狭く感じましたが、全体のレイアウト等がよく考えられたよい会場でした。

会場は大盛況

９月18日の出品受付から９月19日の審査を経て、９月20・21日が一般公開ならびに表彰式という日程で進んだ今大会。一般公開の初日には、立食パーティー形式でのオープニングを経て、セレモニー（スティーブン・エリオット氏への追悼とグッピー功労者への記念品授賞式を含む）も行なわれました。今までのコンテストにはない華やかさが感じられました――こんな方法もあるんだ！　と感心するばかりでした。

時間をずらして別会場でグッピー関連の講習会が開催されるなど、多くの創意工夫が見られたイベントでした。２日間の来場者数は老若男女かかわらず数百人が訪れたのではないでしょうか！　台湾のグッピー人気の凄さを感じました。

国際大会では、恒例の審査員や関係者との食事会があり、そこでは楽しい出会いがありますが、今回は日本語がわかる方々がいましたので安心でした。美味しい料理をみんなで和気あいあいといただく本当に楽しいひと時でした。今後、ＳＮＳにてさらなる親交が深まればと思っています。また日本のトップブリーダー、日渡さん、鈴野さんとも初対面でしたが、気さくにいろいろとお話しさせていただきました。来年２月には、また台湾でワールドグッピーコンテストが開催されるとのこと。ますますグッピー愛好家が増えるのではないでしょうか。

今後もグッピーを盛り上げていくためには？

詳しいことは不明ですが、台湾のグッピー愛好家たちは、かなり昔から日本のトップブリーダーとの深い繋がりがあったようです。日本やその他海外より持ち帰ったグッピーをもとに、台湾独自のブリーディングを重ねて、国際大会でも戦えるすばらしい個体を作り上げていることは明白です。

一方日本ではトップブリーダーの高齢化やグッピー人気の陰り、専門店の減少、国内コンテストの減少（今現在、国内で開催されているコンテストは全国で３～４か所程度／年間）と負のスパイラルに陥っています。せっかく丹精込めて育て上げたグッピーのお披露目の場がないのです。

グッピーにいろいろと関わってきた者として、今後どのように取り組んでいくべきなのかはわかりませんが、いろいろなイベントを通じてグッピーの楽しさを伝えていく必要性があるように思われました。今回のような国際大会への参加も大事なことではないでしょうか。

藤原彦亮
グッピー愛好家、コンテスト審査員。１９９６年、第１回ワールドグッピーコンテスト（ＷＧＣ）に開催スタッフとして参加。以来、数々の国際大会に出品、審査員としても参加している。ラウンドテールやソードテール系のグッピーを好む。現在は大阪にて「アクアブリーダーズクラブフェスタ」等のイベントを年１回のペースで主催、アクアリウムファンの拡大を目指し活動中